

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
G231001 日本の造形A	日本の現代的な造形行為への関心と理解を深め、受講生が現代社会の新しいニーズに応える造形行為に関して自立的に考察できることを目指す。	大学院1年生の選択科目である本授業の内容・方法は、人と人との関係に係る社会造形として成立してきた日本の伝統的なコトを対象に、それら社会造形の作法、礼儀、しきたり、行事、担い手等への関心を惹起し、意味や意義を再発見すべき造形の発見・発掘から、それらが生まれた社会背景や生産技術、時代評価等のサーベイを通して、社会造形に対する自らの造形評価をプレゼンテーション等によって伝達・交換・発展できる資質を修得するものである。毎回、パワーポイントで作成したスライド集を配信し、対面授業でのスライドに基づく説明を行った上で課題に取り組み、疑問点等はUNIPAのQ&Aにて対応する方法をとることで、常に、理解の定着を図るようにした。毎回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容を心がけ、自らの専門領域に引き寄せて考察できるように工夫した。これらにより、目標に対する相応の教育効果があったと考えられる。	履修者数21名のうち、7名の回答となった。比較的少ない人数の授業のため、常に授業内で履修者の反応を見ながら、理解の定着を図るようにしたため、評価はおおむね良好であった。次年度以降も、基本的には今年度の授業方法の方針を継続していきたい。	授業評価4.829 回答率33.3% 科目GPA3.48
G231002 造形倫理学	「造形行為」のもつ本来的かつ実際の意義を認識し、設計から使用するまでのすべてのプロセスにおいて起こり得るアクシデントや配慮すべき事柄を理解することを目標とする。	大学院2年生の選択科目である本授業は、造形活動を社会の中で遂行する際に起こり得る倫理的諸問題の性質、原因、解決、防止の手立てについて理解し、造形行為において不可欠な2つの倫理的視点である生命倫理および環境倫理の観点から論じ、さらにデザイナーや建築家の職業倫理や研究倫理の考察を通じて、人間の本质につながる造形行為の倫理的問題を究明する内容とする。毎回、パワーポイントで作成した授業資料を配信し、オンデマンド授業でスライドに基づき説明を行った上で課題に取り組み、疑問点等は授業内、UNIPAのQ&Aにて対応する方法をとることで、常に、理解の定着を図るようにした。複数回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容を心がけ、自らの専門領域に引き寄せて考察できるように工夫した。これらにより、目標に対する相応の教育効果があったと考えられる。	履修者数2名のうち回答者数1名であった。少人数の授業のため、常に履修者の反応を見ながら、理解の定着を図るようにしたため、評価は良好であり、学生による授業評価アンケートの高評価授業となった。基本的には今年度の授業方法の方針を継続していきたい。	授業評価5.00 回答率100% 科目GPA4.00
G231003 建築学特別講義	目標 現代社会における建築空間・居住空間に求められる諸課題を、もっとも身近である建築＝「住宅」を対象に学び、これからの社会に求められる建築空間・居住空間のあり方について考えられる。 教育効果 新しい社会の到来へ向けて、建築空間・居住空間の来歴と課題を建築学の視点から学び、新たなモノとのかかわり方をデザインすることを目的とします。	オンデマンド授業にて、現代の住宅設計をテーマに、二十世紀の名作住宅の紹介、ライフスタイルにあわせた住まい、空間デザインの発想法について講義を行った。	毎回の授業ノートや、レポート試験では、課題の主旨が正しく理解していない学生がいた。日本語が得意でない留学生もいるため、丁寧な説明を心掛けていきたい。	授業評価4.733 回答率37.5% 科目GPA3.25
G231003 建築学特別講義	現代社会における建築空間・居住空間に求められる諸課題を、もっとも身近である建築＝「住宅」を対象に学び、これからの社会に求められる建築空間・居住空間のあり方について考えられる。 これからの社会は、ITやAIを活用したコミュニケーションの機会が増大し、これまでに培われてきた知識や技術にIoTを加えた新たなモノとのかかわり方をデザインすることが求められます。こうした新しい社会の到来へ向けて、本講義では今ある建築空間・居住空間の来歴と課題を建築学の視点から学びます。	3人によるオンデマンド授業だがそれぞれの先生の個性が出る授業で充実していると感じている。ただ、他学科の学生にとっては建築関係の授業に馴染めずレポートを書いていることもうかがえた。	来年度も3人の先生の個性を生かした専門授業を進めていきたいと思う。他学科の学生にもわかりやすい授業内容にしたい。	授業評価4.733 回答率37.5% 科目GPA3.25
G231005 マネジメント特論	達成目標 1. マネジメントの基礎理論を理解できる。 2. 組織管理における課題を理解できる。 3. 経営戦略のフレームを事例に適用して理解できる。 リソースを有効に活用しながら組織目標の達成を目指すために、理論と実践の両面からマネジメントにアプローチし、経営課題の分析力を身につけることを目的とする。	マネジメントを大きく経営組織論と経営戦略論という枠で捉え、前者については組織構造、組織文化、人的資源、リーダーシップ等について、後者については競争戦略、企業・事業戦略、マーケティング等について考察と議論を行った。教科書を用いて現代のマネジメントを体系的に学べるように心掛けた。	教科書を1章ずつまとめる課題を課し、発表するようにしたが、履修者が留学生であり、発表後に不明点に対する説明を丁寧にすることで理解促進を図りたい。	授業評価 回答率0% 科目GPA3.00

GA23101 設計演習A	各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。	構造分野の実践的設計能力の向上を目的として、構造図面の作成を中心に課題を行った。試験課題を含めた課題の状況を見ると、受講生の設計能力の向上に十分寄与したと言える。	大学院講義の性格上、専門領域外となる受講生も多いため、個別対応で個々の学生の能力に合わせた指導を行う。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23102 設計演習C	目標 実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。 教育効果 建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各領域の設計テーマについての演習を通じて、設計そのものの行為と設計に必要な知識や技能を獲得・向上させる行為とを有機的に接続しながら、実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。	具体的な共同住宅の建て替えプロジェクトを設定し、地域調査、未来予測、問題提起から、ビジョンを作り、その施設をどのように活用したら良いのか、設計の提案を行った。	今年度は、設計専攻の学生であったため、実践的な実務レベルの内容とした。履修する学生の専攻やレベルに応じて課題内容を検討し、各専門領域で協力し合い、課題に取り組むことができるように心掛けていきたい。	授業評価5.000 回答率100% 科目GPA4.00
GA23103 実務研究	理論的研究ないし知識獲得の成果を社会の要求に対応させること、あるいは実務現場の体験を通して学修成果の会得を確実にすることを目的とします。 実務経験を通して、学修成果を社会の現実に関連させる方途を確実に把握することができる。	1名が受講した。公共施設のデザインコンペへの参加、企業での実務現場の体験（インターンシップ）に取り組んだ。いずれも精力的に、熱心な取り組みがみられた。	大学院らしい、実務現場の体験（インターンシップ）のあり方などを検討してゆきたい。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23104 建築時事	達成目標 1. 日本国内の建築時事はもちろんのこと、海外の建築の動向も含め、近年に話題となっている建築や都市関連の事象における知識を広げること。 2. プレゼンテーションでのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと。 教育効果 情報収集の能力向上を高め、また情報の処理能力を磨くことが求められます。さらに、単に情報を持ち得るだけでなく、その情報を活用し、人に伝える手法を向上させるものとなります。	資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築の近年の事象に興味を持つように授業内容を工夫しました。学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。	特に問題はないようであった。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.66 回答率75.0% 科目GPA4.0
GA23106 建築環境論	省エネや環境負荷低減に配慮した建築や住まいの設計に求められる理論について講述し、これを理解するとともに、ディスカッションや演習を通して実践力を高めることを目的とします。 環境に配慮した建築を設計する上で求められる知識を習得し、環境・エネルギーに配慮した建築の提案ができる。	省エネや環境負荷低減に配慮した建築について、各回で異なる小テーマについて調べてもらい、発表をするという課題を重ねながら、積み上げたものを最終提案に結びつけた。学生それぞれが、対象地域や建築用途を定め、省エネ建築の提案を行うことができた。	各回での調べ学習に取り組みやすいよう、テンポのよい展開を工夫してゆきたい。	授業評価 5.0 回収率33.3% 科目GPA3.67
GA23107 建築設計論	諸理論、事例、実務の実際等についての知識を踏まえ、具体的な計画・設計の指針をいかに導く・適用すればよいか判断する力、つまり計画、設計における主体的、行動的、実践的な探求力、分析力、思考力を育てることを目指す。 建築造形行為の中核となる建築設計の様々な課題と理論を最新の動向・成果の提示を通じて概括し、空間を具体的に計画・設計するための方法の検討を行う。 空間的魅力の条件、集客の手法などを含め各種の理論、実務の実際と評価等が主たる関心であり、文献講読や事例の検討も行いながら、21世紀の建築設計論のあり方を展望し、建築家の社会的役割と責任など、建築、都市、社会の関係に関わる諸問題についても論究する。	履修者数2名であった。空間における人の行動から建築設計を考える講義・演習とした。定期試験レポートは、学習した内容から2つのテーマを選択し、調査報告するもの及び建築作品について考える内容とした。テーマ設定から調査方法、報告について指導した。	実際の成績に評価は比例はしていると考える。レポートのまとめ方・進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながら、まとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価5.0 回答率50.0% 科目GPA3.5
GA23109 構造設計論	構造設計に関する基礎的知識を習得する。 各種構造形式の構造規定を理解できる。 構造計算方法を理解し、身につけることができる。 過去から現在までの技術の変遷を理解できる。	構造設計や各種構造形式の規定に関する事など、様々な知識を積み重ねるだけではなく、授業内での演習課題を実施した。アクティブ・ラーニングの一貫として、反転授業を実施したところ、学生の理解が深まったと考えられる。		授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23111 建築学ゼミナールA	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。	受講生がいないため、開講せず		授業評価 ※受講人数の関係上非公開

GA23117 建築学ゼミナールA	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。 建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	とても意欲的な学生であり、夏休みにもアンケートを行い学外の論文にも取り組みたいと話していたため合わせた指導を行った。	学生の能力に合わせた対応をしていきたいと思う。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開 科目 GPA4.00
GA23112 建築学ゼミナールA	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	1名が受講している。テーマに基づき調査研究を行った。資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。	学生の作業ベースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23119 建築学ゼミナールA 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	授業の性格上、本来は個別指導となる。前半はマ研究の基本についてのレクチャーを中心に行った。研究テーマに関係する論文を収集し、要旨をまとめて発表することで研究センスの修得を図った。	留学生であっても理解できるよう専門用語の説明を丁寧にしたい。研究の背景と目的、研究方法、先行研究のレビューといった研究計画をステップを踏んで丁寧に進め、研究のアプローチの基本を計画的に修得させるようにする。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開 科目 GPA3.00
GA23120 建築学ゼミナールA集中	マネジメントの研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的とする。	設定したテーマについて個別指導を行った。また、途中経過について発表させ、問題点を自ら見つけ、改善点について指導した。	今後は、修論作成に向けてテーマに沿った調査がより計画的に進むようスケジュール管理を徹底させていきたい。	授業評価 - 回答率 0% 科目 GPA3.00
GA23122 建築学ゼミナールC	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポートするとともに、問題発見・解決方法の提案をディスカッション形式で行った。	一定の研究成果をあげるような指導ができたと思われる。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23123 建築学ゼミナールC	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	1名が受講している。テーマに基づき調査研究を行った。資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。	学生の作業ベースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23131 建築学ゼミナールC 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	個別指導をするなかで、文献や資料を収集し、そのまとめや分析の課題を課し、アウトプットを報告することで研究の蓄積が図れたと考える。	少人数であるため学生の能力や個性に合わせ、主体的に進められるように課題の与えてサポートしていく。	授業評価4.00 回答率100% 科目 GPA3.00
GA23134 建築学ゼミナールD	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、問題発見・解決方法の提案をディスカッション形式で行った。	一定の研究成果をあげるような指導ができたと思われる。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開

GA23135 建築学ゼミナールD	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとらして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができると期待されています。	1名が受講している。テーマに基づき調査研究を行った。資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。	学生の作業ベースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GA23143 建築学ゼミナールD 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができると期待されています。	個別指導をするなかで、文献や資料を収集し、そのまとめや分析の課題を課し、アウトプットを報告することで研究の蓄積が図れたと考える。	少人数であるため学生の能力や個性に合わせて、主体的に進められるように課題の与えてサポートしていく。	授業評価 4.00 回答率100% 科目GPA3.00
GD23101 デザイン演習A【教職選択】	達成目標 領域の実践的デザイン能力の向上を図りつつ、①基本的テーマを迅速・確実に提案する、②このために基本的知識・技法を再学習する、③より高度な提案に結びつけることができることを達成目標とします。 目的 研究を実施するために必要となる基盤知識とスキルを獲得しながら、デザイン分野全体を視野に入れた実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。	履修者11名 全員中国からの留学生が取り組み姿勢だけでなく成果を出せるものが数人おり、熱の入った授業ができた。だがやはり日本語の苦手な学生には政策研究として伸びる意味が通じない研究の進行が進まなかった。学年の中に影響力のある日本人がいないのは日本での授業としての問題だと思ふ。	大学院ということで調査研究して論文を書くことが目標ようになってきているが、私は成果が制作作品でも良いと考えている。その意識やレベルを上げるためには、学生間の相互競争が有効なのでそこを促していきたい。	授業評価2.73 回答率36.4% 科目GPA4.65
GD23102 デザイン演習C【教職必修】	領域の実践的デザイン能力の向上を図るため、研究を実現するために必要となるプロセス及び検討手法と実施スキルを獲得することが目標です。 研究コンセプトを具現化するための検討手法の修得において、デザイン分野全体を視野に入れた実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。	受講者5名。この授業は毎回、学生が自分の研究テーマについて発表する形式で実施している。学生同士で討論することにより、新たな気づきや発見が生まれる。研究内容をシェアすることで、モチベーションも向上する。進捗が遅れている場合でも、なぜ進まなかったのか、どこで行き詰まっているのかをリアルに話し合うことで、次に進むための手助けをしている。	留学生在学生同士の意見交換の際に、日本語でのコミュニケーションが難しく、母国語で話してしまうことがあるため、日本語での会話を促進するよう指導していく必要がある。	授業評価5.00 回答率20% 科目GPA3.00
GD23103 実務研究(デザイン) 【教職選択】	実務経験を通して、学修成果を社会の現実に関連させる方途を確実に把握することができる。 理論的研究ないし知識獲得の成果を社会の要求に対応させること、あるいは実務現場の体験を通して学修成果の会得を確実にすることを目的とします。	受講者が1名で、修士研究に直接役立つテーマを決め、リサーチの方法と範囲を伝えた。	評価結果無し	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GD23104 感性学	「美的なるもの」や感性に関する基本事項を理解した上で、それらを巡る現実の状況に対する批判的視点を養うことを目標とし、個々の受講生が自分の感性的な活動について反省的に思いを巡らすための、いくつかの契機となるような授業内容を展開した。	「aesthetica美学/感性学」は、美と感性と芸術を論ずる哲学として、18世紀中葉に誕生しました。その成立背景を確認し、その後の展開を概観した。スライドを映しながら説明を行い、複数回の課題作成やディスカッションを通して、主体的に考え、意見を発表することで、学習理解を深めることができたと思われる。	履修者14名のうち4名が回答した。回答率が高くないが、回答者からは高い評価を得たため、今後も授業内容および授業方法を継続発展させることとしたい。	授業評価4.950 回答率28.6% 科目GPA3.64
GD23105 認知科学	認知科学を正しく理解し、デザイン開発に適用できる基本的知識と能力を付けることが目標です。	人の認知とセンサーで得られたデータとの関係性を測る実験を通して、認知を科学的に検証することの意味や方法について学べた。簡易的な実験を踏まえたプロセスによって、定量的な評価と定性的な評価方法を検討し、結果の考察についてディスカッションすることができた。実験プロセスに多くの時間が採られ、講義の時間が若干削られてしまった。	講義を経てから、実際に試すよう、学びの順序を再構築する。	授業評価4.9 回答率28.6% 科目GPA2.4
GD23107 視覚デザイン論	視覚伝達について、いろんな物見せたり、様々な話をして理解してもらおう授業。	中国の大学でも一通り勉強をしてきているが、大学院ということでより深い理解をしてもらうために授業を行なった。	来年度の受講生に合わせて考えていく。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GD23108 製品デザイン論	身近な生活の中にも重要なデザインテーマがあることを体験的に理解し、ユーザーの生活に基づく新たなデザイン提案能力の向上が目標である。学部では学ばなかったであろう事項を積極的に取り上げ、より専門知識を高めていく。	受講生は中国からの留学生が多かったが、意欲的に課題に取り組み、一定の成果が上がった。完成の喜びを体験することが出来た。	留学生在に課題違反が多かったので、伝達手段を見直す。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GD23109 AIデザイン論	クローンAI(DXAI, UXAI)の設計ができる。	取引のある企業へ希望する学生を紹介した。学生のやりたいことを聞き取りできた。	来期がないため特になし。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GD23110 デザイン学ゼミナールA集中	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とする。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて充分に理解することが目的である。	積極的に学生が調査したため、レポートは順調に完成した。	積極的なゼミ生であったために順調に進んだ。	授業評価5.0 回答率100% 科目GPA4.0

GD23112 デザイン学ゼミナール A	基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	授業は登校しての対面授業で行った。研究概要など、研究の方向性を検討した。2名の受講者がいたが、1名はデジタルソリューション (TouchDesigner) を使ったインストール、もう1名はサブカルチャーのコンテンツデザインとかけ離れた内容であった。しかし制作の準備と方向性の検討ということで共通の目的をもって授業ができたと思う。	TouchDesignerに関しては独自に研究も行った。事例研究などは履修者間で評価できるようにプレゼンテーションの機会を毎回用意した。1名はN1取得者だが、日本語に問題があり、一方の学生は日本の大学出身で、安易に日本語の助けを求める状況が発生した点に対応を検討する必要がある。	授業評価5.0 回答率100.0% 科目GPA3.0
GD23114 デザイン学ゼミナール A (集中)	達成目標 基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 目的 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	拙い日本語での主題説明を様々な切り口から聞き取り理解するよう努力した。研究テーマを聞くだけで、春学期 (前期) いっぱいかかったのではないだろうか。学部ではなく大学院生なので自主性に任せたいと思うが、研究進行が遅い。	ある程度、課題と期限を決めてやらせないに進まないのかと考える。	授業評価 ※受講人数の 関係上非公開 科目GPA2.50
GD23117 デザイン学ゼミナール A 集中	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価 ※受講人数の 関係上非公開
GD23118 デザイン学ゼミナール A (集中)	基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	受講者2名。各自の研究テーマについて進捗状況を報告し、検討を行う。学生同士や教員との意見交換を通じて、モチベーションの向上を図る。全員が留学生であるため、途中から中国語で話し始めることが多く、日本語での会話を促進するよう指導する。対面での実施により理解度は向上したが、制作にスムーズに入れるよう、さらに指導を強化していきたい。	日本語の向上を図れるよう、コミュニケーションをしっかり行っていく。学生が主体的に進められるよう、サポートを続けていく。	授業評価 ※受講人数の 関係上非公開 科目GPA3.5
GD23121 デザイン学ゼミナール A	基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	毎回の授業におけるディスカッションにより、各自の研究計画を現実的にし、研究テーマを具体化できた。	研究の計画と進捗をゼミ単位で把握できるようにするため共有ツールを用いる。	授業評価4.3 回答率40% 科目GPA2.8
GD23124 デザイン学ゼミナール C	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的な成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握します。	デザイン学ゼミナールCと連携して授業を行った。おもにZoomによる遠隔対面授業を行った。研究内容がPCによるデジタルデザインなので画面共有などを有効に使うことができた。	建築史に関するコンテンツの記述については、建築学科新井教授の指導を仰いだ。時制、助動詞に活用方法など、中国語を研究し、ナレーション作成に生かすことができた。この授業ではコンテンツの設計について集中的に扱った。	授業評価5.0 回答率100.0% 科目GPA3.0
GD23127 デザイン学ゼミナール C (集中)	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自覚の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。□ 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	受講者はひとり。目的意識が明確で、学習意欲が高いので授業はひじょうにスムーズに進んだ。毎回の進捗状況報告では欠かさずスライド資料を用意してくるので、そこから次の課題を見つけ、リサーチを深めていくことができた。色覚とカラーユニバーサルデザインに関する文献貸出と、CUDO等関連団体の情報提供をできる限り行った。N1取得者であるためコミュニケーションに問題はなく、研究テーマ以外にも日中文化論やデザインについて等できる限り対話し、今後のやり取りをスムーズにできるよう心がけた。	評価結果無し	授業評価 ※受講人数の 関係上非公開
GD23129 デザイン学ゼミナール C 集中	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価 ※受講人数の 関係上非公開
GD23130 デザイン学ゼミナール C (集中)	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的な成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握します。研究テーマを具体的な成果へと導くための調査・実験を通じて、デザイン提案に必要な仮説設定を行います。その仮説に基づくデザインモデルに対して調査・分析・評価を実施して、デザイン創出の基盤となる成果を得ることを目的とします。	受講者2名。各自の研究テーマの進捗状況を報告し、検討を行う。学生同士や教員との意見交換を通じてモチベーションの向上を図る。制作を具体的に進めるため、学生は授業ごとに進捗報告を行い、教員は次回までに取り組む課題を提示する。	指示した内容を正しく理解できていないことがあるため、コミュニケーションの取り方に注意が必要である。正しい理解がされるよう、丁寧な指導に努めたい。	授業評価5.00 回答率50% 科目GPA3.5

GD23134 デザイン学ゼミナール C	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握します。 研究テーマを具体的成果へと導くための調査・実験を通じて、デザイン提案に必要な仮説設定を行います。その仮説に基づくデザインモデルに対して調査・分析・評価を実施して、デザイン創出の基盤となる成果を得ることを目的とします。	一部、提案手法の見直しが生じ、評価方法の計画が不十分になった。	提案手法の全体像の把握できるよう、提案手法の図示などの可視化を強化する。	授業評価5.00 回答率50% 科目GPA3.0
GD23137 デザイン学ゼミナール D	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握します。	デザイン学ゼミナールCと連携して授業を行った。 おもにZoomによる遠隔対面授業を行った。研究内容がPCによるデジタルデザインなので画面共有などを有効に使うことができた。	建築史に関するコンテンツの記述については、建築学科新井教授の指導を仰いだ。時制、助動詞に活用方法など、中国語を研究し、ナレーション作成に生かすことができた。 この授業ではデザイン作業のデジタルスキルについて集中的に扱った。	授業評価5.0 回答率100.0% 科目GPA4.0
GD23142 デザイン学ゼミナール D 集中	学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。	特にありません。	授業評価 ※受講人数の関係上非公開
GD23147 デザイン学ゼミナール D	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握します。 研究テーマを具体的成果へと導くための調査・実験を通じて、デザイン提案に必要な仮説設定を行います。その仮説に基づくデザインモデルに対して調査・分析・評価を実施して、デザイン創出の基盤となる成果を得ることを目的とします。	研究プロセスが明確になっておらず、提案手法の見直しが生じたため、実験装置の制作や実験計画が間に合わなかった。	研究プロセスの可視化を行う。	授業評価5 回答率50% 科目GPA3.00